新年のごあいさつ

美波町長　影治信良

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、町政の各般にわたり温かい、しかも深いご理解とご支援をいただきありがとうございました。さらに、各種行事の開催に際しましては、ご参加、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

東日本大震災から一年十ヶ月になりますが、復旧・復興はもちろん、未だに数多くの方々が仮設住宅をはじめ生まれ育ったふるさとを遠く離れた地で生活をされていることにあらためて心からお見舞いを申し上げますと同時に、自然の力の猛威と容赦なさを感じざるを得ません。美波町では大震災以来、自主防災会と連携し切れ目のない防災・減災対策に取り組んでまいりました。避難階段の新設などのハード事業や香川県三豊市との災害応援協定の締結などのソフト事業、あるいは命を守る防災対策として各地域の自主防災会・町内会による避難路などの整備、自主的な避難訓練の実施など、防災意識の向上と対策が一歩一歩着実に進んでいると実感いたしております。本年は、地域防災計画、事前復興計画の策定など住民の皆様と協働して、さらなる防災・減災対策に取り組んでまいります。

町の最重要課題でありました今後の医療提供体制整備方針を決めるため、年初より数回にわたり、素案についての住民説明会やパブリックコメント（意見公募）を行い、六月議会で町立病院の再編統合（一病院一診療所）の方向性についてご承認をいただき、現在平成二十八年四月の開院を目指して事務手続きを進めているところであります。通院のための交通手段の確保を含め、町民の皆様が安心できる医療を提供するため、鋭意取り組んでまいりますのでご理解の程よろしくお願い申し上げます。

また、大震災をきっかけに、本社機能の分散やワークライフバランスの見直しが進む中、全国でも有数のブロードバンド環境を活用したＩＴ企業のサテライトオフィスの誘致活動を徳島県のご支援をいただきながら積極的に取り組んだ結果、東京に本社をおくＩＴ企業二社が恵比須浜田井の町文化交流施設にサテライトオフィスを開設していただきました。今後とも高速情報通信基盤を活かした新たな企業誘致として引き続き推進することで、地域の情報がソーシャルメディアにより発信され、これまでにない新たな形での人の誘致が促進され、地域の賑わいのみならず地域経済の活性化や地元雇用に繋がるものと期待いたしているところであります。

地域に「元気」あるいは「賑わい」を取り戻す取り組みの一つとして「地」「学」「官」連携による大学の移動キャンパス事業に取り組み、四国大学及び徳島文理大学の学生に美波町を舞台として授業を行って頂きました。町のにぎわいづくり、まちづくりの活性化に期待をすると共に、学生の皆さんには座学でなくフィールド学習ということで、しっかりと研究・学習して頂くことにより美波町をさらに知って頂き、それが美波町との縁となり絆がさらに広がればと思っています。

今春、美波町の今後十年間のビジョン（将来の構想）を定める「第二次美波町総合計画」が策定されます。政治、経済、社会環境並びに国際関係も不安定で混沌としている状況にありますが、総合計画に基づく事業を立ち止まることなく着実に推進し「住んでよかったと実感できるまち」の実現に向けて、職員共々全力で町政に取り組んでまいりたいと決意も新たにしているところでありますので、昨年にましてご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が町民の皆様にとりまして、幸多い年となりますことを心からご祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。